

タイ・カセサート大学単位互換プログラム

月末報告書（10 月）

獣医学類 5 年生 西川真央

【はじめに】

私はタイ王国カセサート大学の単位互換留学プログラムを大学の入学式でもらう、国際交流課のカレンダーで知り興味を持ちました。これをきっかけに1年生のころにオンラインでのカセサート大学留学プログラム、2年生のころにオンラインでのアルバータ大学留学プログラムに参加し、英語に触れる機会を持つようにしていました。また、先輩方の留学報告書を拝見し、日本では学ぶ機会の少ない水産分野やエキゾチックの診療の授業があることを知り、留学への参加を強く望むようになりました。

タイに来てからあっという間に5週間が経ちました。ここからは1分野ずつ振り返っていききたいと思います。

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
授業	Swine	Aquatic	Aquatic	Bovine	Bovine

1 - 5 週間のプログラム

【第1週 Swine unit】

タイへやってきて初めての授業は養豚のマネジメントから主要な病気、病気への対処などでした。日本では詳しく学ばない分野だったので想像が出来ず理解に苦しむ部分もありました。授業中や間の時間を使って質問をすると先生方は親切に答えてくださり感謝の気持ちでいっぱいです。また、夜は酪農学園大学の学生で一つの部屋に集まり「今日の復習」をしたのはいい思い出です。この5週間を通して、みんなが頑張っている姿をみて、自分ももっと頑張らなきゃ、と何度も自分を奮い立たせてきました。一緒に留学にした全ての友人に感謝しています。授業のお話に戻します。この分野で一番驚いたことは農場のバイオセキュリティへの意識の高さです。農場へ訪問する前日、私たちは綿棒で体を擦り、アフリカ豚熱にかかっていないかのPCR検査をしてもらい、陰性を確認しました。当日、学校からバンで農場の入り口まで送ってもらうとまず長靴へはきかえました。外で履いている運動靴では農場の敷地にも踏み入れられないのです。農場へ入ると石鹸、シャンプー、着替え、帽子をもらい、シャワーを浴びるように指示をうけました。ここまで準備して初めて豚のいる建物に行くことができました。先生から聞いたお話では、バイオセキュリティにしっかり気を配れている大きい企業や農家だけがアフリカ豚熱を防げることができ、そうでない中、小規

模の農家はかなり少なくなってしまったそうです。



農場でシャワーを浴びた後の写真。この日はとても暑かったのでシャワーが気持ち良かったです

農場の方や大学の先生と記念撮影。豚の健康指標やマネジメントの方法を直接見ることができて大変勉強になりました。

【第2，3週 Aquatic unit】

2週間かけて、ティラピア、エビ、その他のペットとして飼育されるような魚のマネジメントや解剖について学びました。この2週間は農家へ訪問する機会が多くとても忙しい2週間でした。私はティラピアの養殖をする上で、ホルモン剤を使って性別を管理し効率的に育てる方法や、テナガエビの養殖ではの性腺を取り除きネオフィメールにすることで体の大きくなりやすいオスのみを産ませる方法があることにとても驚きました。また、同じ魚種でも管理方法が農家ごとに特徴があったことも印象的でした。ある農家でティラピアソーセージをいただきました。初めは日本で食べるような魚肉ソーセージを想像しましたが、かなりスパイスが効いており全く違うもので、私はとても美味しいと感じました。また私の卒業研究が抗生物質の使用による耐性菌の出現に関するものだったので農家さんや獣医師に尋ねてみたところ出荷に制限がかかるため使わないようにしている農家も多いことも分かりました。



ベタの養殖場での写真。私たちの足元にはベタが入っている瓶が敷き詰められています。



エビの解剖の授業で採血の練習をさせてもらいました。

【第 4, 5 週 Large animal and exotic animal unit】

4 から 6 週目は北海道大学と酪農学園大学の学生 11 人を 3 グループでわけ、生産動物の診療を 2 週間、エキゾチック動物の診療を 1 週間学ぶというものでした。私は 4, 5 週目に生産動物の診療を学ぶこととなりました。実際に往診にでると日本とタイの農家の違いに驚きました。私が往診で訪問した農家はほとんどフリーバーンという飼育方法をとっており、牛の種類もホルスタインとタイの固有種を掛け合わせた暑さに強い種類の牛を飼育しているようでした。日本で見たホルスタインよりも一回りほど小さかったため身長の高い自分にとっては直腸検査がとてもしやすかったです。大学の農場で妊娠している子牛をエコーで映すことにも挑戦し、胎児は映し出せたものの、性別を確認するのは出来なかったです。往診に出る日のお昼ご飯は先生にレストランに連れて行ってもらい、沢山の料理を楽しむことが出来ました。



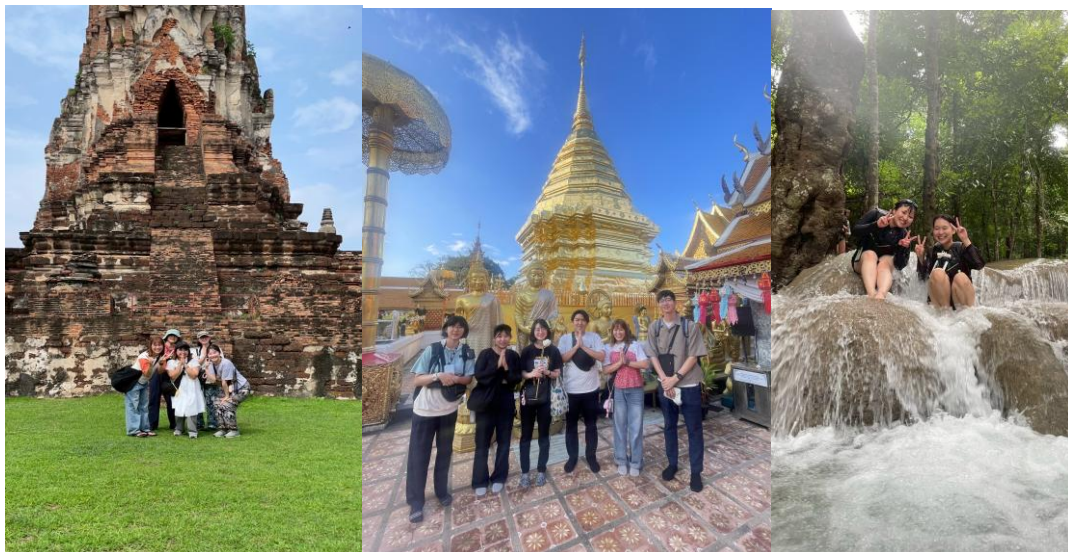
ヤギの採血をしている様子。
一人4頭ほど練習させてもらいました。



同じグループのメンバーでの記念写真。
直腸検査を終えた後で顔や制服に糞便
が飛んでしまいました。

【授業以外での過ごし方】

この5週間でアユタヤ、チェンマイ、チャム、エラワン国立公園、カオヤイ国立公園など多くの観光地を訪れました。酪農学園大学だけでなく北海道大学からの留学生と一緒に観光地を巡ることが出来たことがとても嬉しかったです。多くの観光地を訪れた中で特に思い出深かったことはエラワン国立公園で7つの滝を見に行き、滝つぼで泳いだことです。一番苦労して歩いた先にある7番目の滝は一番美しく、達成感を得ることが出来ました。また、滝つぼには沢山のドクターフィッシュが泳いでおり体じゅうに魚が集まってくるのがくすぐったかったです。私たちがエラワン国立公園を訪れた時期は乾季に入っており、涼しくはなってきたものの歩いていると汗をかくほどだったのでお水に入ることができてとても気持ち良かったです。カセサート大学の6年生の学生とは2回夕食を食べ行き、MUKATAというタイ料理の食べ方を教わりました。



アユタヤでの写真。初めての遠出で交通手段やホテルの予約に戸惑いました。

チェンマイでの写真。チェンマイからの帰り道は13時間の寝台列車に挑戦してみました。

エラワン国立公園の滝つぼで撮った写真。5番目の滝つぼは少し浅めで泳ぎやすかったです。



カオヤイ国立公園での記念写真。断崖絶壁になっていてとてもスリルがありました。この場所からオオハシを観察することができ、嬉しかったです。ガイドさんがとても親切でした。

カセサート大学の学生と食べに行ったMUKATA。鍋の周りにはスープが入っており優しい味がしてとても良かったです。